



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



梅地国有林（中央は日本一の絶景駅、奥大井湖上駅）
静岡森林管理署

- ◎ 治山・林道工事コンクール 治山課・森林整備課・・・2
- ◎ 赤谷の森から 赤谷森林ふれあい推進センター・・・4
- ◎ 第24回森林(もり)は友達！作文コンクール受賞者決定 東京事務所・・・6
- ◎ 森づくり最前線 棚倉森林管理署東館森林事務所 首席森林官 工藤 久也・・・7
- ◎ 下越森林管理署村上支署が完成 下越森林管理署村上支署・・・8

治山・林道工事コンクール

治山課・森林整備課

治山・林道工事コンクールは、国有林野の公益的機能を十全に発揮させ、林業・木材産業の成長産業化の推進その他の事業実施における施策効果を一層発現させることに貢献した治山・林道工事であって、民有林の模範としてふさわしいものを表彰することにより、治山・林道工事における計画、設計・施工の適正化及び設計・施工技術の向上、並びに関係者の意欲高揚に資することを目的としています。

関東森林管理局内において令和元年度に完成した治山工事114件、林道工事58件の内、署等から推薦のあった工事を対象に、学識経験者や、林業家など3名の外部有識者を含む審査委員会において、「コスト縮減」「技術提案」「環境配慮」「施工管理」のテーマ別に、施工体制、施工状況、出来型、出来ばえ等を総合的に審査しました。局の審査委員会から、4件の優秀工事を林野庁に上申した後、林野庁での審査が行われ、以下の3件の工事が林野庁長官賞を受賞されました。



吾妻森林管理署：

白根地区振子沢地域防災対策総合治山工事（株式会社武藤組）

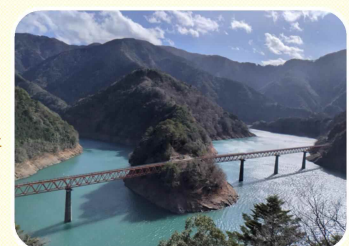
当施工地周辺は、上信越国立公園第2種特別地域に指定されているため、工事の施工にあたっては施工箇所にある植物の移植、水質への配慮、ゴミ拾い活動への参画等、環境配慮を徹底した点が高く評価されたほか、標高1,700mを越える箇所、施工地周辺には硫化水素ガスの発生がある等、厳しい施工条件下にあって、ガス検知機の携行等、施工者の安全の確保徹底した点、各工程で最大限能力が発揮されるよう適切に工程管理を行ない、大規模なコンクリートブロック谷止工を短い工期内に施工した点も評価されました。



梅地国有林（中央は日本一の絶景駅、奥大井湖上駅）

（静岡森林管理署）

梅地国有林は、大井川源流部に位置し、約12kmにわたって断崖が続く「接阻峡」の一部を構成し、峻険な渓谷美を有するとともに、水源地として豊富な水量を駿河地域へ供給している。写真中央の駅は、大井川鉄道井川線の奥大井湖上駅。湖上に浮かぶ駅として、日本一の絶景駅といわれている。中部の駅百選選定。





群馬森林管理署：

五十嵐沢林業専用道新設工事（H30ゼロ国）（三原工業株式会社）

災害に強くコストのかからない林道をつくるという林道作設にあたっての重要な課題に現地踏査時から積極的に取り組み、コンクリート路面工区間においては、路面中央部に導水するように水の流下方向に向かって八の字状に刷毛引き仕上げを施し、分散排水のため5cm角程度の溝を複数作設。砂利路盤工区間においては、分散排水のために敷石による排水工を施工することで、雨水の集中による路面洗掘を防止する等、長期視点に立った維持管理コストの縮減対策を行ったことが評価されました。また、工事支障木について、受注者の自助努力で丸太の直径、長さ及び樹種別に集積したことにより確実な販売に繋がったことも評価されました。



塩那森林管理署：

西ノ沢林業専用道新設工事（H30ゼロ国）（那須土木株式会社）

高精度な測量機器の導入によって、簡便かつ正確な現場の座標管理が出来たことにより、補強土壁工のカーブが丁寧に施工され、また、周囲の景観になじむよう、補強土壁に丸太材を使用する等で見栄えの大変良い工事をした点も高く評価されました。さらに、作業内容と作業範囲の見える化を図るため、始業前の打合せ時のKY活動として、マグネットボードで、作業者名と重機名のマグネットを使用して、誰がどのような作業をするのかを明確にし、労働安全の確保を図った点も評価されました。

以上、林野庁長官賞を受賞した工事の現場代理人・主任（監理）技術者等および優良な工事として選考された8件の工事に対して関東森林管理局長賞が授与されました。

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、林野庁及び関東森林管理局での表彰式は中止となり、各森林管理署等において、それぞれの受賞者に表彰状が授与されました。

今後も、コスト縮減、新たな技術の導入及び環境への配慮等を図るため積極的に創意工夫が行われ、より良い工事が実施されることを期待しているところです。



赤谷の森から

最近のトピックスをまとめてみました

赤谷森林ふれあい推進センター

1. 「「三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画」の推進のための協定書」を更新しました！

平成23年4月1日に締結した協定書が今年の3月31日で有効期間が切れることから、新たに令和3年4月1日から10年間の期間を更新しました。最初の協定書の締結（平成16年3月30日）から2回目の更新となりますが、今後も関東森林管理局、（公財）自然保護協会、赤谷プロジェクト地域協議会と3者連携を取りながら、赤谷プロジェクトの推進に取り組んで参ります。また、赤谷の森管理経営計画書（別冊）も新たに樹立され、これから5年間の計画として活用していきます。是非とも今後の活動に注目してください。

2. 炭焼窯を改修しました！

赤谷プロジェクトの活動拠点である‘いきもの村’には、プロジェクト当初に関係者が集まって作り上げた炭焼窯があります。不具合もありここ数年利用されておらず「せっかくあるのに活用しないのはもったいない」とのことから、このたび窯を改修しました。改修のポイントは、使えるところは再利用しつつ、大部分を取り壊して小さく造り直し、耐久性を考慮して耐火モルタルをたっぷりと使用しています。作業は令和2年6月下旬から順次実施し、今年3月初旬に完了しました。9月9日にみなかみ町を襲った局地的豪雨により改修中の窯には泥が入り込むなどの被害を受けたりもしましたが、このたび無事に完了することができてほっとしています。今後は、炭焼きの専門家を講師に招き、‘赤谷の日’などを通じて、多くの人に炭焼きの楽しさを味わってもらいたいと思います。



6月解体開始



11月モルタルを内壁成形



12月丸太を積み



3月粘土で天井を成形



3月モルタルで天井を成形



3月焼き固めの様子

3. YouTubeに広報用動画をアップしました！

赤谷センターでは、新型コロナウイルスの影響で、自然散策等のイベントを中止せざるを得ないことが多々ありました。イベントを楽しみにされていた方々はもちろん、なかなか外に出る機会のない人にも、自然散策を疑似体験してもらえたら嬉しいという思いから、このたび農林水産省の公式YouTubeチャンネル‘maffchannel’に「小出俣散策ルート 行ってみたぴょーん」

をアップしました。この動画は、赤谷の森の巨樹・巨木が立ち並ぶルート、局の女性職員2人がゲストとなり、ガイドさんと共に散策するというものです。散策の内容も単なるトレッキングにとどまらず、斜面登りや沢登りの要素も取り入れるなど、よりワクワク感を持って森林と溪流の両方の魅力を感じてもらえるよう工夫していますのでご視聴よろしくお祈いします。



ご視聴は
こちらから→



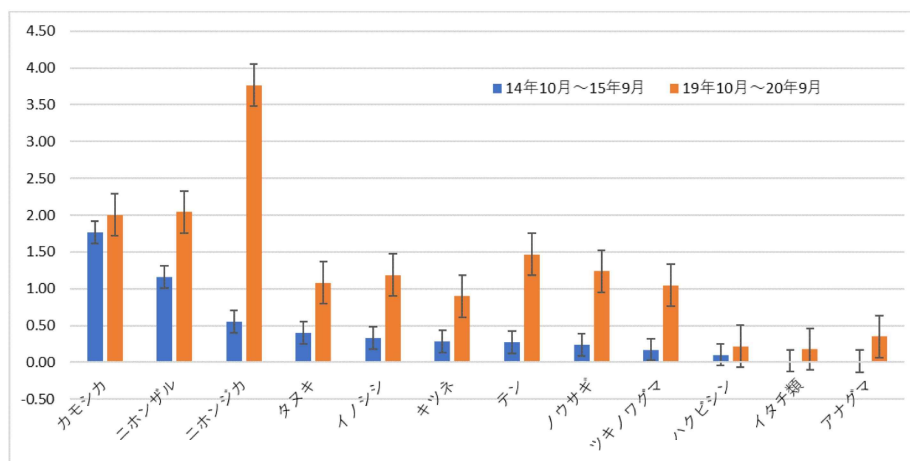
赤谷のブログも
こちらから →



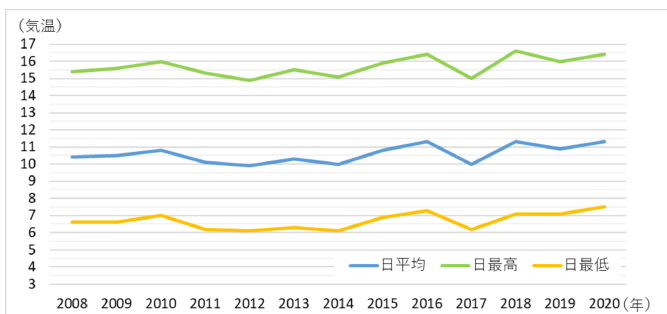
4. 令和2年度 関東森林管理局 森林・林業技術等交流発表会で優秀賞を受賞しました！

令和3年2月16～17日に行われた森林・林業技術等交流発表会において、赤谷センターからは、スライド発表「赤谷の森における自然林復元試験」と、ポスター発表「成熟した人工林の伐採によるイヌワシの狩り場の創出実験」、「ニホンジカの低密度管理に向けて（第2報）」の計3つを発表しました。このうち、スライド発表では優秀賞を受賞することができました（発表者：伊藤、共同発表者：（公財）日本自然保護協会 朱宮）。これも長きにわたる関係者の方々の努力のおかげです。ありがとうございました。

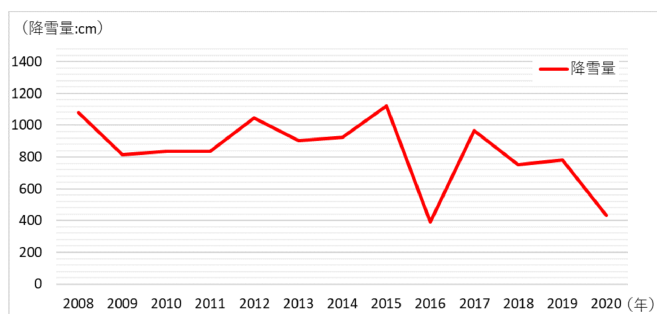
5. 最後にちょっとサイエンス（赤谷プロジェクトモニタリング調査からの紹介）！



2014年10月～2015年9月と2019年10月～2020年9月のカメラトラップ51地点の種別RAI平均値の比較



みなかみ町の平均気温等は上昇傾向



みなかみ町の降雪量は減少傾向

赤谷プロジェクトでは、2008年から赤谷の森に住む動物のモニタリング調査を51箇所に設置してあるセンサーカメラで行っています。普段はニホンジカばかり表に出ますが、その他の動物のデータも貴重なものと考えます。簡単に調査結果を言えば、多数の動物が増加傾向にあり、その理由はなぜか、地球の温暖化によるものではないか、厳しい冬が緩みそれまである程度淘汰されていた動物も生き残るようになり数が増えた、と仮説を立てるのも面白いものです。このデータは赤谷の森のみのものですが、この調査を全国規模で行えば日本の気候変動の推移が見えてくる。その一つの手法として考えると今後も非常に興味が沸く調査の一つと言えます。



第24回森林(もり)は友達! 作文コンクール受賞者決定 東京事務所

今年度の学校はコロナ禍の中での休校から始まり、入学式の延期や校外学習などが中止となるなど、今までにない新年度の幕開けとなりました。第24回森林(もり)は友達! 作文コンクールも募集を開始したものの、多くの学校が森林教室の参加を見送る中で、果たしてどのくらい参加校があるのかと森林作文コンクール実行委員会でも心配していました。

蓋を開けてみると昨年度より少ないものの、10校からの応募があり、合計779名の生徒の参加があり無事に開催できることとなりました。

令和3年1月中旬から審査を行い、2月初めには書面やメール等で審査委員会を開催し、2月15日に最優秀賞等の受賞者20名が決定しました。当初は3月5日に都内で表彰式を予定していましたが、緊急事態宣言が継続されている中、開催するのは難しいとの考えから残念ながら昨年に引き続き中止としました。

このコンクールは平成9年から開催され関東森林管理局のうち茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県に所在する森林管理署・森林管理事務所及び高尾森林ふれあい推進センターが行った森林教室等に参加した小学4～6年生を対象に、体験を通じて感じたことを自ら作文にすることによって森林林業に対する理解や関心を高めてもらうことを目的に、「森林作文コンクール実行委員会」(一般社団法人東京林業土木協会と関東森林管理局東京事務所で構成)が毎年行っているコンクールです。

最優秀賞の林野庁長官賞は、八王子市立七国小学校五年生の白神雪花しらかみせつかさんが受賞しました。「高尾森林教室の思い出」と題し、まるで物語の様な生き生きとした表現で森林教室での自分の体験を綴った作文となっています。その他の受賞作品も森林に興味が無かったけどその大切さに気づいたという作文、国産の割りばしは環境にいいことを知ったという作

文や地球温暖化を防ぐために自分ができることをやっという決意を綴った作文などが選ばれました。惜しくも受賞を逃した生徒さん達の作文も、森林教室で感じた森林の大切さを自分の言葉で書いた素晴らしい作文ばかりでした。

なお、東京事務所のホームページに受賞者一覧と最優秀賞をとった白神雪花さんの作文を載せますので是非ご覧ください。

各賞を受賞された生徒さんには、賞状や副賞のほか、もりかみ協議会から協賛していただいた間伐材マーク認定商品のカートカンなど発送し、それぞれの各学校で祝ってもらいました。令和3年度も開催する予定ですが、より多くの森林教室が実施され、表彰式で生徒の皆さんに会えるといいなと思っております。



学校で表彰してもらった最優秀賞を受賞した白神さん。おめでとうございます!



たぬきが描かれた木製温度計は参加者全員に配られました。

森づくり最前線

棚倉森林管理署東館森林事務所
首席森林官 工藤久也

私が勤務する東館森林事務所は福島県の最南端の矢祭町にあり、日本の百名山の八溝山の麓に広がっている町です。また、町域を南北に貫流する久慈川は鮎釣りのメッカとして知られており、東北地方のトップを切って鮎漁が解禁となる6月の第1日曜日には地元だけでなく東京方面からも多くの太公望が腕を振りに来られます。

さて、当事務所は矢祭町と塙町にある約5,800haの国有林を管理しています。この国有林は久慈川を境に、東部はなだらかな丘陵地帯の阿武隈高地、西部は起伏に富んだ八溝山地に大別できます。

また、当地域は古くから林業が盛んな地域であることから、当事務所管内の国有林もスギ、ヒノキを主とする人工林が林地面積の65%を占めており、人工林の生産力は高く、特に八溝山地では、適潤肥沃な土壌が多いため良好な生育をしています。このような豊かな資源を求め、当地域には国産材専門の大規模製材工場やチップ工場等があります。当署においても、間伐等により生産された国有林材のこのような工場への安定供給を推進しており、森林整備を通じて地域振興に寄与する取組を実施しています。

このように人工林が多い当事務所の管内の国有林にあって、地元の人たちによって守られた天然林があります。「八溝山天然林保存会沿革」によると八溝山周辺の天然林は太平洋戦争中及び戦後に大半が伐採され、この残された天然林は当署管内でも数少ないブナやミズナラを主体とする天然林です。この貴重な天然林を永久に保存するため、戦後、地元の方々が当署を通じて林野局(林野庁の前身)に運動を展開し、昭和27年にはこの天然林が保存区として設定され、また、地元では八溝

山保存会が結成された旨報告があります。保存会では、この貴重な天然林を地域の宝として当署と連携のうえ保存していただいています。毎年シロヤシオが満開になる春にはこの森林の下で総会が開催され、地域の人々との貴重な森林を楽しむとともに後生に引き継ぐ意思を確かめられています。

天然林の下での八溝山保存会総会
(入山国有林(矢祭町))



また、国有林内には美しい滝が連なる滝川渓谷があり、矢祭町では当署から散策路敷を借り入れるとともに整備し、町の貴重な観光資源として大いに活用いただいています。当渓谷は、全長3km、高低差約300mの散策路内に見事な四十八滝が連続する渓谷です。美しい滝とともに春の新緑、夏の冷涼感、秋の紅葉、冬の凍てつくような寒さを求め関東方面を中心に年間2万人のハイカーが当渓谷に訪れています。



滝川渓谷
(東山国有林(矢祭町))

最後に、今までニホンジカの生息が確認されていなかった当森林事務所管内の国有林においても確認されるようになりました。このため、当署をはじめとする八溝山周辺の国有林を管理している森林管理署等ではシカ被害対策に資するため「八溝山周辺国有林ニホンジカ対策協議会」を令和元年に設立するとともに、福島県、茨城県、栃木県と連携してシカ生息状況の把握やシカ被害対策に取り組んでいます。



センサーカメラによる
シカの撮影
(入山国有林(塙町))

私も国有林の最前線に立つ一人として、公益的機能の発揮を重視した国有林の管理・運営を実践するとともにシカによる森林被害対策にも資するよう毎日森林と向き合い、より適切な森林管理について模索している毎日です。

村上・岩船地域の愛される森林管理署として 下越森林管理署村上支署が完成



下越森林管理署村上支署は、新潟県下越森林計画区北部の村上市、関川村、粟島浦村（国有林は不在）の1市2村を管轄として国有林の管理・経営等の業務を行っています。

昭和36年に建設された旧庁舎は、60年に及ぶ経年劣化により老朽化が著しいことから同敷地内にて昨年より建替を始め令和3年2月末に竣工しました。

庁舎周辺には国指定史跡村上城址をはじめ、国指定の重要文化財となっている若林家住宅（武家屋敷）等を擁する地域となっていることから、新庁舎の建替にあたり外装の色彩に配慮し、趣のある黒板塀の景観に寄せたものとしています。また、勾配屋根や格子窓等のデザインを外観に取り入れています。

庁舎内部については、事務室、ホール、会議室等の腰壁や天井の一部に杉羽目板張りを採用し、階段を構成する部材にはCLT材を採用するなど積極的に国産木材を使用しています。事務室内には、構造上の機能を活かした柱に丸柱を採用し、木材を使用している部位は自然の色合いをそのまま活かし来客者に木の持つ柔らかな雰囲気を感じていただけるものとなっています。

◆◆薬用のきのこ◆◆

チョレイマイタケ（食用）（サルノコシカケ科 チョレイマイタケ属）

ブナ林又はミズナラ林の樹下の根に沿って固い菌核を形成し、ここから子実体を発生させる。子実体はカサの径2～5cm位で表面は灰白色から灰色。柄は白色で長さ10cm前後で、根元でまとまって一つの塊になる。この時の径は30～50cmくらい。地中の黒い塊（菌核）から発生し、この菌核を「ちょれい」と言い漢方薬に用いられる。



カバノアナタケ（チャガ）（タバコウロコタケ科 カワウソタケ属）

子実体はシラカンバやダケカンバの樹皮の中に形成される。そのためほとんど見る事ができないが、表面に黒色から茶褐色の堅い塊（菌核）を5年から10年掛けて形成する。この菌核を「チャガ」と言って煎じて飲む。

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027)210-1158
FAX (027)230-1393